



**平成 19 年 (2007 年)
新潟県中越沖地震
災害緊急調査団速報会開かれる**

(社) 土木学会 (会長: 石井弓夫) と (社) 地盤工学会 (会長: 竜岡文夫) は、2007 年 7 月 20 日 (金) に主婦会館プラザエフ (東京・四谷) で共同の速報会を開催した。当日は会場内へ入りきれないほどの 300 人近くの参加者を得て、活発な質疑応答が行われた。

速報会の内容は下記の通り。

- ①開会挨拶: 石井弓夫 土木学会会長
- ②地形・地盤と建物被害: 小長井一男・団長 (東京大学生産技術研究所・教授)
- ③震源地域における地震道特性: 後藤浩之・団員 (京都大学防災研究所・助教授)
- ④液化化・港湾・河川被害: 尾上篤生・団長 (長岡工業高等専門学校・



写真-1 会場の外まであふれた参加者

- 教授)
 - ⑤地盤・斜面・鉄道・道路被害: 豊田浩史・団員 (長岡技術科学大学・准教授)
 - ⑥ライフライン被害: 宮島昌克・団員 (金沢大学大学院自然科学研究科・教授)
 - ⑦閉会挨拶: 竜岡文夫 地盤工学会会長
- 詳細は、土木学会ホームページ (<http://www.jsce.or.jp/report/43/news3.shtml>) を参照のこと。

(土木学会事務局)

※[関連記事]「事故・災害」50 ページ参照

**ASCE より新潟県中越沖地震
被害調査団が派遣される**

ASCE (米国土木学会) は新潟県中越沖地震の被害調査団を派遣し、8 月 2 日～6 日にかけて調査を実施した。今回の ASCE 調査団の調査目的は、新潟県中越沖地震での地震被災地におけるライフライン関連の状況調査である。土木学会は ASCE からの協力要請を受け、被害状況の説明、視察先の調整、ならびに現地調査同行などの協力を行った。

8 月 2 日に土木学会にて、第一次調査団の小長井一男団長 (東京大学生産研究所教授) などにより今回の地震による被害状況の概要などについて説明がされた。翌 3 日からは柏崎市を中心に現地調査を行った。3 日には家村浩和・社会支援部門主査理事 (京都大学大学院教授) と合流し、柏崎市役所にて田村危機管理監から現況説明を受けた後、以後 6 日まで被災地の視察ならびにライフライン関係施設の調査を行った。

今回の調査では、柏崎市役所、東北電力 (株)、国土交通省北陸地方整備局、土木研究所、東日本高速道路 (株)、



写真-1 説明を受ける ASCE 調査団員

NTT 東日本など、関係官庁、企業などの協力をいただいた。ご協力いただいた関係者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

◎調査団構成

- リーダー Mr. Alex Tang /
L&T Engineering & Project Management Consultant
- 団員 Mr. Curt Edwards /
PSOMAS (Consultant)
- 団員 Mr. Mark Yashinsky / California Department of Transportation
- 団員 Ms. Yumei Wang / Oregon State Geology Department
- 団員 Mr. Anshel Schiff / retired professor from Stanford University, California

(土木学会関係者)

- 家村浩和 (8/3) (京都大学大学院教授・社会支援部門主査理事)
- 後藤洋三 (8/3～4) (富士常葉大学環境防災研究所特任研究員)
- ヨルゲン・ヨハンソン (東京大学生産研究所 講師)
- 柳川博之 (土木学会国際室)
- (土木学会国際室 柳川博之)

**台湾總統が
八田與一技師に褒章を追贈**

2007 年 5 月 8 日、今年も八田與一夫妻墓前祭が盛大に行われた。「八田技師夫妻を慕い台湾と友好の会」(中川外司事務局長) 一行はその翌日、李

登輝氏と会見の後、陳水扁総統を表敬訪問。その席で総統から「嘉南平野の水利の父・八田與一技師に褒章を追贈することを研究したい」という発言があり、直後の5月21日に褒章授与が政府決定された。

そして7月12日、東京港区の台北駐日経済文化代表処で八田技師の長男夫人、八田綾子氏に褒章が贈られた。

以下は、その全文の日本語訳である。

「嘉南平野の水利の父である日本人技師・八田與一氏はこころざしに燃え、人徳に富み、才気に満ちた人物であった。東京大学の土木科を卒業し、はるばる海を渡って台湾総督府土木部に迎えられ、力を尽くしてさまざまな功績を残された。とりわけ嘉南大圳と烏山頭ダムを計画、先進国家のダム工法を視察し、技術設備の不足を克服して新機軸を打ち出し、資金的困難と憂慮を乗り越えてついに東アジア最大のダムを完成させた。また、灌漑、洪水防止システムを計画、大計画による三年輪作の給水を推し進め、農耕地の生産能力を大幅に拡大させるなど、嘉南平原の豊かで新しい一頁を開いた。大甲溪の電源開発計画にも協力し、土地改良の基本方案を研究・計画し、遠大なその計画は人々に恩恵をもたらした。厳しい時代に、新しく試みた水利建設で台湾に大きな業績

を残し、こころざしの実現をはかるため仕事に専念、その名誉は全台湾に伝えられた。その大きな遺徳は模範となり、歴史書により語り継がれてきた。八田氏が世を去られ年月は過ぎたが、心よりの哀悼の意を示し、特に褒賞し、政府により英明なる八田氏を懐かしむ意を表すものである。

総統 陳水扁 行政院院長 張俊雄」

また、李登輝前総統、陳総統会見に同行した虫プロダクションから、長編アニメーション映画『パーテナライ(八田来)！南の島の水物語』が日本と台湾合作で製作されることが両氏に報告された。

なお、褒章は9月から金沢の「ふるさと偉人館」で展示される。

(報告・全国建設研修センター 緒方英樹)

「鋼・合成構造標準示方書」 出版および講習会開催

構造物の性能照査型設計への移行に対応して、性能設計の導入と最新の研究成果を取り入れた「鋼・合成構造標準示方書(Ⅰ総則編、Ⅱ構造計画編、Ⅲ設計編の合本)」が、2007(平成19)年3月に鋼構造委員会より刊行されました。これを受けて、去る5月14日(月)東京会場、5月18日



写真-1 大阪会場の様子

(金)大阪会場において、講習会が開催されました。

「鋼・合成構造標準示方書」はこれからの構造設計における基本的な規準としての位置付けを目指して編纂された示方書であり、性能照査型設計の考え方や適用のしかた、さらには鋼・合成構造分野での最新の研究成果に基づく設計技術について講義が行われました。講習会当日は、2会場あわせて250名以上の官民学などさまざまな立場の技術者・研究者の皆さまにご参加いただき、性能設計への関心の高さが感じられました。

なお、今回は「鋼・合成構造標準示方書」のⅠ総則編、Ⅱ構造計画編、Ⅲ設計編の3編について出版・講習を行いました。今後、耐震設計編(2007年度)、施工編、維持管理編(2008年度)が出版される予定となっています。